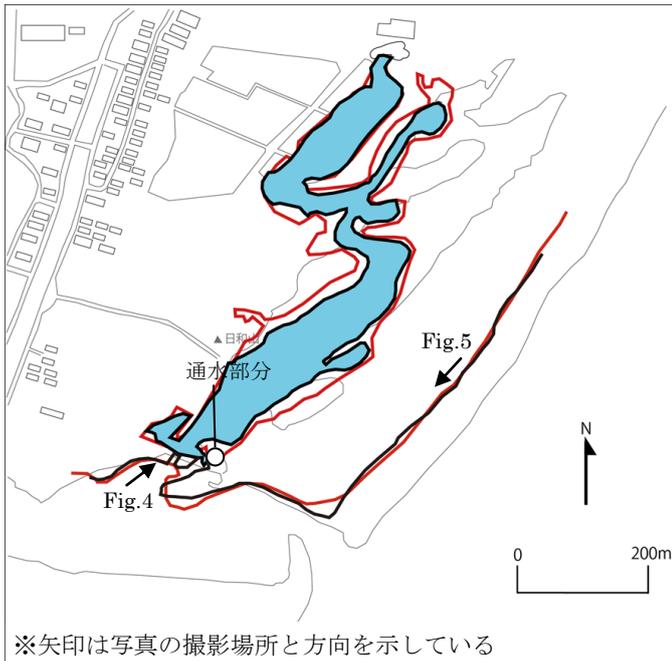


## 蒲生干潟の地形調査⑦

### ■つながった川と潟湖



※矢印は写真の撮影場所と方向を示している

Fig.1 11月5日・12月22日の汀線・海岸線の簡易測量結果



Fig.4 新たな通水部分の建設工事のようす



Fig.5 海岸線付近に見られた風紋



Fig.2 導流堤の通水部分 南側より撮影



Fig.3 通水部分の水の出入り 西側より撮影

調査日 2015年12月22日(火) 11:40~13:30

この日の満潮時刻は12:14であり満潮時間帯に調査を行った。

Fig.1で11月の汀線および海岸線を赤、12月のそれを黒で示した。11月の調査の段階では潟湖と川の間には多くの砂が堆積し、潟湖と川の水の出入りが出来ない状態であったが、今回の調査では潟湖と川は導流堤にもうけられた2箇所の通水部分とも水の出入りが行われていることが確認された(Fig.2)(Fig.3)。また、つながった導流の西側では新たな通水部分の建設工事が進んでいた(Fig.4)。通水部分がつながったことにより、11月の調査と比べて、潟湖の水位は下がり面積が減少していた。海岸線は11月の調査とほとんど変化がなかったが、東西方向の風の流れを表す風紋が見られた。また海岸の砂の量が減り、海岸の傾斜が緩やかになっていた。導流堤がつながった経緯について今後さらに調査を進めていきたい。(中田 晋)